

美しい日本語をつぎの世代へ！
東日本大震災復興応援コンサート
うたの力で復興を！

第6回 2012 こだいら

雨情うたまつり

プログラム

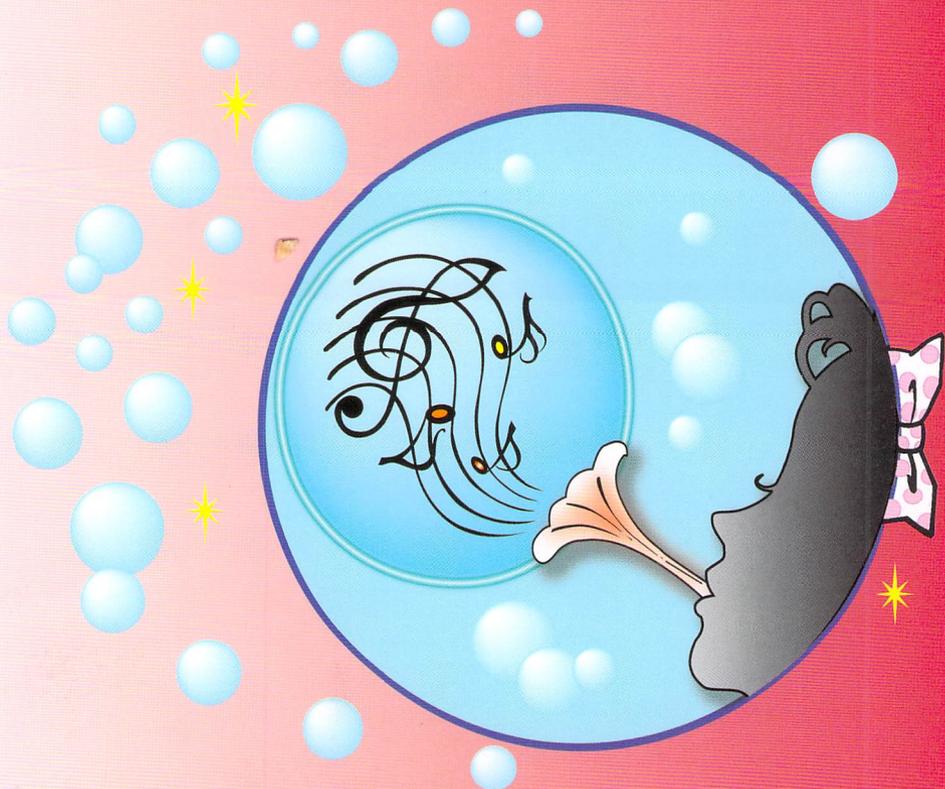
2012年5月27日(日)

13時30分開場・14時開演

ルネこだいら大ホール



「小平霊園に眠る野口雨情」



主催 こだいら・雨情うたまつり実行委員会 / (公財)小平市文化振興財団
後援 小平市 / 小平市教育委員会 / 小平市社会福祉協議会 / 小平商工会

PROGRAM

プログラム

開会あいさつ 2012 こだいら・雨情うたまつり実行委員会会長 神石 實

来賓お祝辞

1. 童謡～長唄(三味線)

波浮の港・青い目の人形・よさこい鳴子踊り (武政英策作詞作曲) 小平市棒打ち唄保存会

300年前の昔から、麦の脱穀の際の作業唄として歌い継がれて来た小平市の最も古い民謡「棒打ち唄」は、時の流れと共に消え去ろうとしていました。30年前「絶やさぬように」と瀬沼先々代市長のご発案で譜面を作成し、200名の会員が「保存会」として全国の民謡と共に普及に励みました。その後小平市文化協会にも加盟し、小中学生への三味線体験指導、老人会・老人ホームへと幅広く活躍しております。本日は、高知市長賞等の受賞実績がある「舞花」さんに花を添えていただきます。

2. 合唱

どうぶつメドレー

小平第四小学校 Sing a Song
指揮：吉村寛子 ピアノ伴奏：廣田真理子

Sing a Song は小平第四小学校の放課後子ども教室の取り組みによる合唱団です。歌の大好きな子供達が集まり、週二回、放課後に練習をしています。昨年度、色々な本番を重ね、歌の楽しさや、皆で心をつ一つにして演奏する喜びを感じてきました。今日は「兎のダンス」「蛙の夜まわり」「黄金虫」「証城寺の狸囃子」の四曲からなる「どうぶつメドレー」を演奏します。子供達一人一人の頑張りとお顔をどうぞ見逃さないで下さい。

3. 器楽アンアンブル

雨情メドレー (七つの子、あの町この町、雨降りお月さん)、上を向いて歩こう クレッシェンド

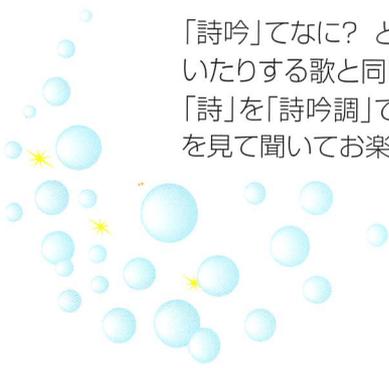
私たちは、音楽が好きな仲間同士で集まり皆様に聞いていただく機会を頂きながら活動しています。出会いを大切にしながら少しずつでも成長していけたらという意味をこめてクレッシェンドという名前をつけました。いつも心を込めて楽しく、大好きな音楽を奏でていきます。この度、初めて雨情うたまつりに出場させて頂き、大変うれしく思っております。雨情メドレーは一風変わったアレンジにしました。雨情の心が伝わるように感謝の心で演奏します。どうぞお楽しみください。

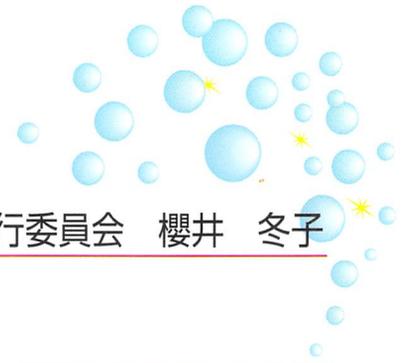
4. 詩吟

構成吟 雨降りお月さん

ぎんゆう
コーラス：コール・コスモス 舞：扇和静社中

「詩吟」てなに? と聞かれたら「音楽です!」と答えます。皆さんがカラオケで歌ったり、コンサートで聞いたりする歌と同じで「詩」を表現する方法の一つだからです。私達の活動は誰もがよく知っている「詩」を「詩吟調」で聞いていただき、「詩吟」を皆様に知って頂くことです。今回は「雨降りお月さん」を見て聞いてお楽しみ頂きます。





休憩 : 15分

5.心のゆりかご「口笛演奏」

シャボン玉・証城寺の狸囃子・七つの子・波浮の港・船頭小唄

高橋一眞 & 愉快的仲間たち
指揮:榎本秀子 ピアノ伴奏:山田洋子

口笛を楽器のように音楽として普及させようと、17年前日本で初めて口笛教室を開設し、最初のコンサートを「永田珈琲倶楽部・こもれび」で開催。ここが口笛普及の発祥の地です。健康増進、美容効果もあると、老若男女、全国的に愛好家も増え、「マナーを守り品良く」をモットーに世界大会も開催、普及に努めてきました。何といても自分の身体が楽器に変身、お気軽・お手軽。本日は、高橋一眞各教室の有志、愉快的仲間が集まり演奏致します。子供は小学2年生、涌井理乃・木下わかなです。最近、テレビ・ラジオからも口笛の演奏が多くなりました。どうぞお楽しみください。

6.吹奏楽

「証城寺の狸ばやし」(作曲:中山晋平/編曲:岩井直溥)

小平青少年吹奏楽団
指揮:和田 貴嗣

小平青少年吹奏楽団は、1986年、地域における音楽文化の創造と青少年の健全育成を目的に創立されました。現在は高校生から社会人まで約30名の団員が在籍し、小平第六小学校の音楽室を拠点として活動を行っています。演奏活動としては、年1回の定期演奏会(ルネこだいら大ホール)のほか、地域の子供達を対象にした演奏会や、成人式、市民祭り等市主催の各種行事への出演など、年10回以上の演奏会を開催しています。本日は皆様におなじみの「証城寺の狸ばやし」を、吹奏楽のアレンジで演奏いたします。どうかお楽しみ下さい。

7.雨情の歌とスズキ・メソードの子どもたちのヴァイオリン演奏

ちょうちょう(外国民謡)・こぎつね(外国民謡)・アレグロ(鈴木鎮一)・七つの子・
黄金虫・シャボン玉・ドッペルコンチェルト第一楽章(バッハ)・小平市歌・ふるさと

ピアノ伴奏:嶋村益代・松井花枝

スズキ・メソードとは創始者鈴木鎮一が、どの子も周りの大人が語りかける言葉を自由自在に話すようになるのに着目し「どの子も育て方ひとつ」「人は環境の子なり」という理念のもとに設立された社会教育団体です。音楽を通して高い能力と美しい心を育てるメソードは、今では世界46ヶ国に広まっています。本日の出演は、子供たちに日本の美しい音楽文化に触れさせる機会を与えて頂きました。3才~大学生の子供たちが会場のお客様の歌とご一緒に演奏いたします。どうぞお聴き下さい。



野口雨情の生涯

野口雨情の生涯

雨情は明治15年、茨城県磯原で、父：野口量平一母：てるの間にうまれた。先代は水戸藩出入りの廻船問屋で、かなり手広く商売をしていた。今も残る雨情の生家（記念館となっている。津波で被害を受けた。）を訪問すると、当時はかなり裕福だった様子が窺われる。

磯原で小学校を修了後、東京の叔父宅に寄寓し、中学へ進学。実家の家業は傾きつつあるとはいえ、まだその程度の余裕はあったのだ。明治34年には東京専門学校（後の早稲田大学）に進学、坪内逍遙博士に師事し詩作を勉強した。

明治37年に父量平が急逝、実家の事業は壊滅状態となる。雨情は大学を中退し帰郷、家督相続し親戚の勧めにより、結婚。家業再興を目論むがうまく行かない。

樺太や北海道に逃避。生活のために新聞記者をする。石川啄木と知り合う。上京・帰郷を繰り返し、植林事業や山林経営にも手を染めるが、所詮武士の商法でうまく行くはずもない。一方で東京での生活で触発された文学・詩作への夢は捨て切れず、離婚・再婚を経て、再び上京し、豊島区大塚や、吉祥寺などに住む。

「赤い鳥」誌など童謡ブームが勃興し、雨情は新刊「金の船」誌の編集長に。種々の童謡詩を発表し、やっと童謡作詞家との地位を確立することができた。有名な童謡は、大正末期のこの時期に集中して発表されている。その後、新民謡のブームにもうまく乗ることができ、各地を巡歴。数多くの作品を発表し、良い作曲家を得て、作品はヒットした。種々の文学協会の役員を務め、満鉄からの招待で満州旅行にも。太平洋戦争が始まり物資不足の中、昭和18年に疎開先の宇都宮近郊で脳溢血で倒れる。昭和20年、療養先で永眠。故郷の磯原に葬られる。

雨情の風貌・人物像

風貌は小柄で眉目秀麗、若い頃は、村の娘や、花柳界でも人気があったという。口ひげでもわかるように、お洒落でもあった。しかし貧困の最中には貧しい身なりだったこともある。人柄は、温厚、丁寧で腰が低く、友人を大切にした。また小さいものに対するいたわりの心情も詩作に表れている。

一方で短気・頑固なところもあったという。事業家とし

ての素質はなかったようだ。再婚したつる夫人が持った第一印象は、「ものなれた物腰だが、少しも下品なところがなく、如何にも知識人らしい。」であったという。



雨情の結婚

明治37年11月(雨情22歳)、東京での勉学を放棄し、実家の再興に着手した雨情は親族の薦めで、栃木県喜連川の財閥の娘高塩ひろ(同い年)と結婚。野口家は財政的支援を期待していたのかもしれない。各種の資料によれば、あまり暖かい結婚生活ではなかったとされているが、北海道での新聞記者時代に、或いは東京にも、雨情はひろ夫人と子供を呼び寄せ、貧しいながらも自立して暮らしていたという。一概に不仲だったという訳でもなさそうである。

大正4年5月(雨情33歳)に、ひろと協議離婚。勝気と言われていたひろ夫人は、金にもならない詩作にのめりこむ雨情に愛想をつかしたのかもしれない。その後、湯本温泉(現在の常磐湯本町)の旅館柏屋の女将、明村まちのもとに住み込む。彼女はその昔、小すみという名の雨情馴染みの芸者で、大変親切で雨情の子供ともども面倒を見た。

大正7年(雨情36歳)、水戸の旅館三芳野の若女将、中里つる(当時17歳)と再婚。つるは文学少女でもあり、売れない詩人に大変理解があったようだ。またお客慣れしていて、雨情の友達を大いにもてなしたという。

上記の事柄は夫婦間の問題であり、また関係者もご存命であることから、詳しい論評は差し控えるが、小平霊園にある雨情の墓標には英吉・つるの名前が仲良くなっているのは事実である。



雨情と新民謡

大正末期から昭和初期にかけて、地方自治体や地方の企業が、その地方の観光地や名産品などを織り込んだ新民謡を沢山作った。近年では永六輔がいずみたくと組んで「にほんのうた」シリーズを発表し、「いい湯だな」(群馬

県)、「女一人」(京都府)などをヒットさせたのと似ている。他にも「函館の女」とか「長崎ブルース」などご当地ソングの例は枚挙にとまらない。

雨情は童謡だけでなく、この新民謡の分野でも数多くのご当地ソングを作っている。今でいえば、さしずめ阿久悠や、なかにし礼のように、人気のある作詞家だったようだ。よく知られているところでは「波浮の港」(伊豆大島)があり、童謡でも「証城寺の狸囃子」(木更津)もご当地ソングといえるだろう。

雨情と小平の関係

雨情は旅の詩人で、住居も転々としたためか、全国各地に雨情の業績を顕彰する歌碑や雨情会のような集まりがある。それでは小平との関連は何か。

明治22年、小川新田・大沼田新田・野中新田・鈴木新田・廻田新田などが合併して、小川の「小」と平らな地形から「小平村」という名前がついた。当時、小平村は神奈川県だったが、明治26年には東京都に編入された。江戸時代から新田開発の対象地であった荒地で、京や江戸市中のように文化が繁栄していたわけではなく、比較的歴史の新しい土地柄である。したがって小平にゆかりのある著名な芸術家といえ


ば、明治以降の平櫛田中(1872~1979)、齋藤素巖(1889~974)、新しいところでは江藤俊哉(1927~2008)と、それほど多くはない。

昭和40年、雨情のご子息である野口存彌(のぶや)氏(当時武蔵大学教授)が近くで尊父の供養をしたいと磯原の墓から分骨、東京都小平霊園の32地区1区18号に祀られている。野口雨情も平櫛田中などとともに、小平ゆかりの芸術家として列することとなったのである。これを近隣の児童に周知するために「うたまつり」を開催し、地域文化振興の一助となればと願っている。

また小平市では10~3月(冬季)の夕方4時30分に、児童に帰宅を促す目的で「愛のチャイム」を一斉放送している。曲目は「七つの子」である。

「小平雨情祭」から「こだいら・雨情うたまつり」へ

前述のように東京都立小平霊園には野口雨情の墓がある。この事実から小平市上水南公民館の歌謡史学習講座で講師をされていた故鈴木亨氏(跡見学園女子大学元教授・詩人)が中心となり、講座終了後の活動の一環として「小平雨情祭」が平成8年に始まった。しかし実行委員メンバーの高齢化や、財政的な問題などにより、平成16年第9回をもって終わってしまった。

その後市民有志の間で「折角続いた雨情を慕う集いを自分達で復活させよう」と新たな準備会が結成された。手弁当で集まったのは市内の教育・福祉・民生・商工・タウン誌などの活発なメンバーで、小平の町に根付いたよい伝統を再び発信しようと智恵を出しあった。

新イベントは些少ではあるが有料として、広範な市民にチケットを買っていただくことで、また小平市文化振興財団との共催事業とすることにより、財政基盤を確立した。出演者はプロのゲストに頼らず、市の広報誌でアマチュアの出演団体を公募している。近年は歌唱だけでなく、朗読、詩吟・舞踏・器楽演奏などの幅広い分野からの参加者が集まるようになってきている。

(文:こだいら・雨情うたまつり実行委員会 剣持庸一)

アンケート結果のご報告

昨年の第5回「こだいら雨情うたまつり」(2011年5月15日開催)で実施したアンケート調査には257人の方ご協力いただきました。概要および実行委員会からのお答えを添えて御礼・ご報告とさせていただきます。

- ☆ 観衆の属性:小平市在住の方が2/3、残りは市外からお出かけいただき、60代以上の方が7割を占めています。
- ☆ 印象的な演目としては、NPO ポポロの人气が高く、毎回出て欲しいとのご意見がありました。昨年度は5周年記念事業として特別にプロのステージをご鑑賞いただきましたが、「こだいら・雨情うたまつり」の基本理念の一つとして「一般市民による手作りのうたまつり」を目指しており、アマチュアにできるだけ多くの発表の場を提供したいと考えています。10周年には、また新たな記念事業を企画いたします。
- ☆ プログラムの内容として「雨情の歌だけに絞ってほしい」との声もありました。「雨情」の「うたまつり」ですから雨情作詞の曲に限定すべきというご意見はよくわかります。しかしこの企画は雨情作品の専門的な「研究会」ではなく、「うたまつり」と位置付けています。一般のお客様に馴染みのない雨情の曲をとりあげるより、よく知られた曲を楽しみお聞きいただくことを念頭においています。雨情の詩に共通する、子供たちへの優しいまなざしが美しい日本語で歌われている曲をとりあげ、演奏会に多様性を持たせることを目指しています。
- ☆ 「スタッフが忙しそう」との同情のお声もいただきました。たしかに本番当日、スタッフは手不足で、老骨に鞭打ち走り回っております。実行委員会への参加、当日のお手伝いのへのご協力をよろしくお願いたします。

さあ みんなで歌いましょう 大きな声で！

黄金虫

黄金虫は 金持ちだ
金蔵 (かねぐら) 建 (た) てた 蔵建てた
飴屋 (あめや) で水飴 買って来た

黄金虫は 金持ちだ
金蔵建てた 蔵建てた
子供 (こども) に水飴 なめさせた
(野口雨情作詞 / 中山晋平作曲)



七つの子

からすなぜ鳴くの からすは山に
かわいい七つの 子があるからよ
かわいかわいと からすは鳴くの
かわいかわいと 鳴くんだよ

山の古巣へ 行って見てごらん
まるい眼をした いい子だよ
(野口雨情作詞 / 本居長世作曲)

シャボン玉

シャボン玉飛んだ
屋根まで飛んだ
屋根まで飛んで
こわれて消えた

シャボン玉消えた
飛ばずに消えた
産まれてすぐに
こわれて消えた

風、風、吹くな
シャボン玉飛ばそ
(野口雨情作詞 / 中山晋平作曲)

故郷 (ふるさと)

兎追いしかの山 小鮎釣りしかの川
夢は今もめぐりて 忘れがたき故郷

如何にいます父母 恙 (つつが) なしや友がき
雨に風につけても 思い出ずるふるさと

志 (こころざし) をはたして いつの日にか帰らん
山は青きふるさと 水は清きふるさと
(高野辰之助作詞 / 岡野貞一作曲)

小平市歌

(昭和29年5月15日制定)

みどり綾なす はてなき大地
みのる武蔵野 希望の広場
つねにのびゆく 小平は
理想つらぬく 開拓の
歴史を誇る ころこの故郷

花をうつして 流れよ清水
夢もはるかに 世界につづく
鐘よ高鳴れ 小平は
若き力の たぎりたつ
学園の町 文化の泉
(勝承夫作詞 / 下総皖一作曲)

被災地支援募金活動

昨年の「第5回こだいら・雨情うたまつり」は東日本大震災の2カ月後の開催であり、うたの力で復興をとサブ・タイトルに掲げ、コンサートの収益より¥100,000_を義援金といたしました。また、当日はスズキ・メソードの子供たちの場内における募金活動も行われ、ご来場の皆さまより¥182,765_の温かいご支援をいただきました。合わせて¥282,765_を東日本大震災復興支援の義援金として、東京都共同募金会を通じて被災地へ送らせていただきました。

スズキ・メソードの子供たちにとりまして被災地の方たちのお役にたてる貴重な社会貢献活動の体験学習になりました。この体験をもとに今年もかわいい子供たちの募金活動が行われます。引き続き皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。



■ご挨拶

2012こだいら・雨情うたまつり実行委員会会長 神石 實

早いもので、昨年の東日本大震災以来、既に1年余りが経過いたしました。復興・再建に尽力されている皆様には心より応援申し上げます。リーマンショック以降、欧州の財政不安に起因する円高、中東や極東アジアの政情不安に伴い、我が国の経済状況も低迷を続けておりますが、このような時こそ前向きな気持ちでことにあたる必要があると思います。

本日午後の一時、雨情の世界に身を置いて心をリフレッシュしていただき、明日からの皆様の元気の源になることを念じております。

なお本年度も、コンサートの収益の一部を義援金として被災地へお送りいたします。カンパ箱をロビーに設置しておりますので、お帰りの際にはご協力をよろしくお願いいたします。

■ご挨拶

(公財)小平市文化振興財団代表理事 高橋 三男

第6回「こだいら・雨情うたまつり」にご来場いただき、ありがとうございます。

今年も昨年に引き続き、復興支援の意義を込めて開催することとなりました。どうぞ、皆さまの温かいお心をお寄せいただければと存じます。

童謡は、大人が子どもたちに歌って伝えてきました。次の世代に、いつの世にも色あせない日本人の感性や優しさを引継いでいく大切な役割を持っていると思います。その昔、雨情の詠んだなつかしい詩に触れ、世代を越えて心とむひと時を過ごすことができれば、復興へ向けた希望の光になると思います。

この素晴らしい催しにご尽力くださった方々に感謝申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。

■ご挨拶

小平市長 小林 正則

こだいら・雨情うたまつり実行委員会主催による「2012こだいら・雨情うたまつり」が、盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

雨情うたまつりの復活から6年目となる本年は、小平市制施行50周年を迎える年でもあります。雨情の作品を通じて、地域の皆様をはじめ多くの人々が交流し、人と人のつながりが強くなっていくことをご期待申し上げます。

準備や運営に携わられました皆様のご尽力に深く感謝を申し上げますとともに、ますますのご発展と本日の盛会を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

次回(第7回)のこだいら・雨情うたまつり

この「雨情うたまつり」は、一般市民で構成される実行委員会と、(公財)小平市文化振興財団の共催として、また小平市、小平市教育委員会、小平市社会福祉協議会、小平商工会のご後援をいただいて開催しております。

今後も継続して開催してまいりますので、いっそうのご支援を賜るようお願い申し上げます。次回の「雨情うたまつり」は下記日程で開催の予定です。

日 時:平成25年5月26日(日)午後

会 場:ルネこだいら 大ホール

詳細は小平市報を始めとして、ルネこだいら情報紙、チラシ、ポスターなどによってお知らせいたします。

実行委員会メンバー

横山 太郎	神石 實	海上 玲子	井口 典子	永田 政弘	板井 歩
内野 三次	内堀 菊江	太田 史郎	大塚 美代子	剣持 庸一	小林 秀子
櫻井 清子	櫻井 冬子	武井 玲子	谷 美智子	西角 昭	松井 恭代
松永 和子	八尋 恵津子	山田 和美	大平 真一	笹川 均	



こだいら・雨情うたまつり実行委員会



公益財団法人 小平市文化振興財団

〒187-0041 東京都小平市美園町1-8-5

TEL 042-345-5111 Fax 042-345-9951